

令和6年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 一人一台端末を効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、生徒の主体的で協働的な学びを支援し、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード)	① 県工学びのスタンダードと「R 8 0」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「Chromebook を活用した意見交換や記述を求める授業」や「県工 Thinking time」、「R 8 0」などを通じて、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。〔改定〕 A 75%以上 B 65%～75%未満 C 55%～65%未満 D 55%未満	(教務課・各教科) 最終評価(A) 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が82%であった。ほぼ全ての授業で、ペア学習、グループ学習を積極的に行えるようになり、前年度に引き続き生徒の思考力・表現力を高める授業が行えたことが要因と考えられる。 また、Chromebook を活用した、授業の内容理解度を把握する確認テストの実施や授業の振り返りとしてのR80 や四行録等も生徒にかなり浸透してきていると感じられる。プレゼンテーションをさせたりする取り組みも多く見られた。ただ18%の生徒が否定的な回答をしているため、今後もさらに Chromebook の利活用を研究し、授業のねらいに向けて効果的に言語活動等を行うことにより、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
	② 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。〔継続〕 A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	(教務課・各教科) 最終評価(A) 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が85%であり、前年度と同じ割合である。生徒の多くは進路やさらには将来目標を定め、継続的に学習に励んでいると考えられるが、資格取得等に向けた取り組みは積極的であるにもかかわらず、教科の予習・復習に関する家庭学習については、評価は依然としてあまり高くない。これらのことが定期考査の取り組み姿勢にも顕著に表れ、欠点科目取得者の人数も多い。成績不振者に関しては、教科担当や担任からの指導、学校全体としては、放課後補習期間を設け学習の取り組み姿勢や教科指導を行っている。継続した取り組みであるが、学ぶ場と時間を与え環境を整えた形で、今後も実施していく。もっと多くの生徒がより積極的に学習に取り組めるよう授業や課題の設定及び環境の改善も進めていきたい。
	③ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	1人1台端末の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。〔継続〕 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(学習情報課) 最終評価(B) 「先生は1人1台端末を効果的に活用した授業をしている」という問い合わせに対して「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した生徒は67.38%であり、昨年同様B評価となった。だが、数字は昨年度の69.1%と比較してわずかに下している。社会のICT化の進展に伴い、生徒のICTに対する意識や機器の使い方と、教員のそれとの間にギャップが生じている。あるいは、ICTを使う学習と、実際の学力の向上や生徒の満足感との間に差が生じているとも考えられる。今後さらに検証を重ね、授業公開や研修を通して、学力の向上につながり、より満足感の得られる活用法を探っていきたい。
学校関係者評議会の評議会	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末の活用については私自身、資料も作り、流れも理解できているが貴校の教員においては活用方法などを理解し、把握はできているか。 1人1台端末が自由に使えないという、生徒の意見があるが、学校のツールなので、自由である必要はないと思います。また、端末の使用方法において否定的な回答のコメントを拾うことの方が大切ではないかと考えます。 満足度を上げるためにには、質問の切り口や内容を精査しなければならないと思います。 クロムブックが自由に使用できないという意見があるが、クロムブックが全てではないと思います。本学の学生はスマートホンでも卒論かけるくらいである。クロムブックは一つの手段であり、アンケート項目の聴き方を変えることで、さらにその先が見えるかも知れないと考える。 			
学校関係者評議会の評議会を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末の活用について文科からの支持があったとき、現場ではその通りに行うことは困難で新しいICT技術を勉強することが急務でしたが、若手の教職員たちが思いきってどんどん新しい技術を使って授業をしている一方で、黒板も併用して授業の効率を上げるなど、今ではICT一辺倒ではなく、バランスよく使っている。 現在、生徒がスマートホンを使用している環境に比べ学校の端末は様々な制約が多く違和感を持っていると考えます。 端末の種類や使用方法を自由にすると授業の方法についてアイデアをもっと喚起されるかも知れないことや、便利な機器にはこちらが予想できないような使用法が想定され、子ども達の順応性が高く、それに長けてくることから、50分の授業の中でスマホの使用を可能とするのは、各先生の端末を使用しての授業に対する方針や考え方には差があり難しい。 			

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	達 成 度 判 断 基 準	分 析 (結果と課題) 及び次年度の扱い (改善策等)
2 規範意識やマナーの向上を通して、将来の職業人として高い意識を持つた生徒を育成する。(人間力スタンダード)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来的な職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。【継続】 A 85%以上 B 65%～85%未満 C 45%～65%未満 D 45%未満 遅刻者数(実人数)減少の割合で判断する。【継続】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年) 最終評価 (A) 「あなたは、日頃生徒がしっかりと挨拶を行っていると思いますか」という問い合わせに対して、「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計が89%となり評価はAである。昨年度及び今年度前期よりは評価は上昇した。生徒または保護者の評価は95%を超えていることからも、学校全体で挨拶を日常的に行っていることがわかる。今後も挨拶の大切さをあらゆる機会で指導をするとともに、教員からの挨拶をより高いレベルで実践しながら指導を継続し、自らしっかりと挨拶できる自己肯定感の高い生徒を育てていきたい。 (生徒指導課・各学年) 最終評価 (C) 遅刻者数は、1月現在で978人(昨年度818人)と昨年より増加した。天候の悪い日は交通渋滞が予測できるが、天候の悪い日に遅刻者数が極端に増加している。時間を守る規範意識が低下し、天候が悪ければそれでも仕方がないという雰囲気がある。また、バスの運行本数の減少に伴い、保護者による送迎の増加に伴い交通渋滞で遅刻をしてくる生徒が増加した。状況に応じた時間管理をしっかりと予想して行い、事前準備の大切さを、今後も繰り返し指導していきたい。また、特定の生徒の遅刻数が増加しているため、個々の指導の徹底も図りたい。
	周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。【継続】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務課) 最終評価 (C) 生徒の肯定的な回答(あてはまる、ややあてはまるの計)が、前期81%、後期74%であり、教員的回答(前期98%、後期93%)及び保護者回答(前期94%、後期94%)となっており、生徒にとっては、産業教育フェアでの外部の方へのものづくり体験等の活動も一部の生徒のみの参加であったことや除雪作業等を行ったものの学校周辺美化活動がなかったことが、肯定的な回答が教員や保護者に比べ低くなっている原因とみられる。 改善策としては、上記の行事に加え、中学校PTAやその他の団体等の来校時の交流等やクリーン・ビーチいしかわに携わる活動等各科で実施している様々な活動も地域貢献につながっていることを生徒に意識させていきたい。またものづくり大会は地域の産業振興に寄与していることも意識してもらった上で参加してもらう等も挙げられる。さらには質問内容を再検討し、より現状に即したものにしていくことも考えている。
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数(累計)減少の割合で判断する。【継続】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・学年団) 最終評価 (A) 本校の違反件数は、昨年の228件から77件と大幅に減少した。本校では、自転車マナー検定の全校生徒実施、グッドマナーキャンペーンの実施に加えて個別に交通安全指導を行っている。また、毎朝校門での自転車乗車マナー指導も行っている。今年度は、学校周辺や通学路での指導も行った。全校集会では、自転車乗車ルールの徹底について厳しく指導し真剣に考えさせている。違反数の6割以上が放課後の下校時間帯であり、違反の半数が「並進」である。ヘルメットの着用も促しながら、自分の命を守る行動や他人を思いやれる行動ができるよう今後も粘り強く指導していきたい。
	③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。【継続】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(生徒指導課・全職員) 最終評価 (A) 肯定的な回答をした教員が94%でした。教員側の認識としては、情報交換は十分にできていると考えていることがうがえる。アンテナを高くし、授業等の行動・言動にも注意を払い、早期に問題の発見に繋げられるようにしている。生徒に対しても、機会ある毎にいじめは許されないことを伝え、生徒からのサインを見逃すことなく、今後とも教員相互が風通しのよい状態を構築し組織的に対応していく。
学校関係者評価委員会の評価			・自転車の違反件数が減ったのはどんな手立てを行ったのか? ・自転車は便利であるが、歩行者に接触するなどして加害者になるリスクもあることを生徒に周知されるといい。そうなれば並列走行など交通マナー違反が減ることで被害者も減り、加害者も人を傷つけてしまったことを悲しむことが減ると思います。闇バイト問題についても生徒に対し犯罪に荷担することになるなどのリスクについての声かけが大切なのではないかと思います。 ・いじめについては、アンケートも取ってるでしょうが、水面下で見えないものもあるでしょうし、様々なアンケートを取るなど工夫し、否定的な意見や声を拾えるようにしたほうが良い。 ・相談室や保健室の役割は大きく。大学に通えなくなる学生が、年々増えている現状であるが、貴校はそのような状況にどのような体制をとっているか。 ・本当に今は心のケアが大切である。そういうたった教育相談についての取り組みはなかなか資料に書けないが、ぜひ継続的に行って下さい。	
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			・自転車の交通マナーについて、迅速に職員が現場に出向き早急に対応し、事案の内容を把握し、それについての対策を考え、集会や各教室において注意喚起を行っている。 ・闇バイトについては生徒指導課より、交通マナー違反と同様にリスクについての捉え方や犯罪は、いけないということを注意喚起している。 ・いじめについては、これについては、生徒指導課のいじめアンケートをはじめ、担任の先生は相談室や保健室などと連携していじめの早期発見はもとより、心のケアにあたっている。 ・相談室を担当する教諭が2名おり、臨床心理士(S C)が週に1回、発達障害アドバイザーが月に1回本校に配置されている。またこのほかにも養護教諭が2名おり、そのうちの1名が公認心理士を取得するなどして子どもたちが相談する場所の確保に努めている。また相談に行きやすい雰囲気を醸成することにも努めている。	

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	達 成 度 判 断 基 準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。（技能スタンダード）	<p>① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。</p> <p>② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。</p> <p>③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。</p>	<p>① 進路指導課 3年学年団</p> <p>② 工業7学科 教務課</p> <p>③ 工業7学科</p>	<p>就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 【継続】 A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満</p> <p>認定者数（特別表彰+ゴールド+シルバー）で判断する。 【継続】 A 70名以上 B 60名~70名未満 C 50名~60名未満 D 50名未満</p> <p>【地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会】の場合は、大会出場の難易度で判断する。【継続】 A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C プロック大会で入賞した D 県大会で入賞した</p> <p>【地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会】の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。【継続】 A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した</p> <p>各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 【継続】 A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選</p>	<p>進路指導課・3年学年団）最終評価（A） 1社目の試験を159名受験し11名が不採用（公務員希望3名の不採用を含む）であり、内定した割合は93%であった。面接試験で会社への理解が乏しい、協調性が低い生徒が不採用となっている。生徒には企業研究、他者の意見を受け入れ、自分の考えや意見を伝えられる力を各学科・課と連携し育成を図りたい。</p> <p>（工業7学科・教務課）最終評価（D） 12月末時点での認定予定者は、特別表彰1名、ゴールド16名、シルバー9名の29名の予定である。昨年度の最終認定者は、特別表彰が5名、ゴールド12名、シルバー17名の34名であったため、合計人数は減少した。また特別表彰者が1名と難易度の高い資格を取得した生徒も減少した。資格取得は目的ではないが、専門科目の深い学びにつなげるためのモチベーションアップになることには間違いない。また就職する企業によっては取得している資格によって手当が付くこともあるため、そのような情報も生徒へ提供していただきたい。</p> <p>【地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会】（工業7学科） 最終評価にて実施 暫定（A） ○機械システム科（A） ・第24回高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門石川県大会 1位、3位(1名北信越大会出場) ・第24回高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門北信越大会 1位（全国大会出場） ・第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会 5位 ・ジャパンマイコンカラーリー2025北信越大会 Camera Class 第4位（全国大会出場）</p> <p>【地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会】（工業7学科） 最終評価にて実施 暫定（A） ○機械システム科（A） ・第31回全国ソーラーラジコンカーコンテスト2023 in 白山 5位</p> <p>【各種コンテスト、コンクール】（工業7学科） 最終評価にて実施 暫定（A） ○工芸科（A） ・令和6年度環境月間ポスターコンクール 優秀賞 ・令和7年用国土緑化・育樹運動ポスターコンクール 準特選 ・第37回いしかわ県民陶芸展 石川教育委員会賞 ・令和9年度全国高等学校総合文化祭いしかわ県大会ポスター原画募集 最優秀賞（採用） ・令和6年度レタリング技能検定3級 優良賞 ○テキスタイル工学科（A） ・文化服装学院主催「第6回全国高校生フッショングデザイン画コンテスト2024」佳作 ・神戸ファッション専門学校主催「第27回全国高校生デザイン画コンクール」優秀賞 ・いしかわフッショングエスタ2024小学生・中学生・高校生によるデザイン画コンクール 石川県織維協会会長賞 石川県知事賞 金沢商工会議所会頭賞 石川県教育委員会賞 ○デザイン科（A） ・令和6年度 明るい選挙啓発ポスター 文部科学大臣賞、総務大臣賞 ・第35回読書感想が中央コンクール 奨励賞 ・国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール 中央審査 入選</p>
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への参加はどのように行っているのか。 ・各町内会と協定みたいなものを結んでいると聞いているが。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	ボランティアには部活動中心で参加することが多く、ボランティアに参加することで部活動の活性化につながると考えている。			

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	達 成 度 判 断 基 準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 学校行事や部活動等を通して、粘り強くたくましい体力と精神力及び周囲と協働する意識や社会性を培う。	<p>① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。</p> <p>② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。</p> <p>③ 健康診断の事後処理の指導を強化し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。</p>	<p>生徒会課</p> <p>生徒会課</p> <p>保健課</p>	<p>部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。【継続】</p> <p>A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p> <p>県総体の成績等で判断する。（個人・団体あわせて）【継続】</p> <p>A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下</p> <p>保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。【改定】</p> <p>A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p> <p>視力検査・歯科受診済の生徒の割合で判断する。【継続】</p> <p>A 65%以上 B 55%～65%未満 C 45%～55%未満 D 45%未満</p>	<p>(生徒会課) 最終評価【A】 学校評価アンケートにおいて、意欲的に活動に取り組んでいる生徒数は81%で、ほぼ昨年度並みの数値であった。忙しい中、部活動に足を運んでくださる顧問の先生方の日頃の努力によるものと思われる。顧問の先生にはご苦労をおかけするが、今後も継続した取り組みをお願いしたい。一部の加入率が年々減っていっている。担任や顧問を通して再入部や転部を進めていきたい。</p> <p>(生徒会課) 最終評価（B） 全国総体には、運動部からはボクシング部の1部のみ、文化部からは美術部、写真部、放送部の3部が出場した。運動部では、ここ最近では最も低調な結果であった。各部に高い目標設定を促して、奮起を期待したい。</p> <p>(生徒会課) (B) 肯定的に回答した合計が、生徒96%、保護者93%であった。学校行事では、保護者の参加を認めているのだが、感染症予防等のため、人数制限を設けたりしているのでその分評価が伸びなかったのかもしれない。 今後も生徒が積極的に取り組めるようにしていきたい。特に、生徒会の各種委員会の活動場面を増やし、より魅力ある学校行事にしていきたい。</p> <p>(保健課) 最終評価（A） 1月末の集計結果は、視力受診率68.4%、歯科受診率74.1%であり、保健指導の充実や個別指導により受診率が向上したと考えられる。高校生にとって「健康的な生活を送る」ことは軽視されがちだが、生涯の健康を保つためには不可欠である。そのため、健康管理能力の育成を目指して、健康について興味関心を持つことができるよう活動の充実を図りたいと考える。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>・学校では部活動の他、学校行事としてどんなものがあるか。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<p>・一番は県工展があり、今年度は21世紀美術館で開催しました。</p>			

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	達 成 度 判 断 基 準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）								
5 教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことなく組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	<p>教員が学校で設定した定時退校日を守っている回数の平均で判断する。【継続】</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>A</td><td>12回</td></tr> <tr><td>B</td><td>10～11回</td></tr> <tr><td>C</td><td>8～9回</td></tr> <tr><td>D</td><td>7回未満</td></tr> </table>	A	12回	B	10～11回	C	8～9回	D	7回未満	(各科・学年・各課) 最終評価 (C) 全教員の平均は、9.1回であった。昨年度より0.9ポイント上昇したが、抱えている業務により個人差があることが考えられ、当日の呼びかけ等、定時退校できる雰囲気作りができるとの評価も多い。特定の教員に業務が集中する状況があるようであるが、業務分担を推進しているがなかなか解決しにくい部分がある。歴史のある学校で業務も多いが、さらに業務内容の点検を行い、負担を軽減していく様子に努めていきたい。Teams等の活用を推進し、定時退校への意識をさらに進めたいと考える。
A	12回											
B	10～11回											
C	8～9回											
D	7回未満											
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・現在、様々な場で会議の仕方が変化してきています。大学ではメール会議が増えてきており、ピックアップと資料提供で乗り越えているが、教員側のモチベーション下がると生徒や学生に影響してしまいます。会議の形など、一層の改善があるのではないか。 ・会議の内容に「抜け」を防止するために、他の資料を見なくても良いように、要点を絞り、抜粋した資料をメールに添付し、それだけを確実におさえさせるようにしています。 										
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・メール会議とはどういった形なのか、また伝達ミスを予防する良い方法について検討したい。 										